

# Vol.5 「実行の4つの規律」

## 読后感想

読書会第3弾の課題図書は「実行の4つの規律」。ベストセラー「七つ習慣」を組織で実践するためのやり方が書かれている。

### ■課題図書の概要

## 実行の4つの規律

行動を変容し、継続性を徹底する

- 著者：クリス・マチェズニー  
ショーン・コヴィー  
ジム・ヒューリング  
竹村富士徳
- 出版社：キングベアー出版
- 定価：2200円+税



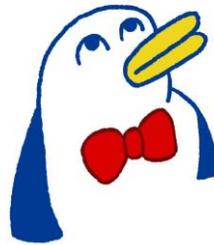
学びのジョナサン

この本は、NATTARA会員  
「N氏」推薦です。  
貴重な情報、  
ありがとうございました。

なかなかハードルは高く、2か月かけて読破、  
1か月かけて情報交換して、まとめました。

MEMBER

今回の  
参加メンバー



M氏



S氏



エルビス越前

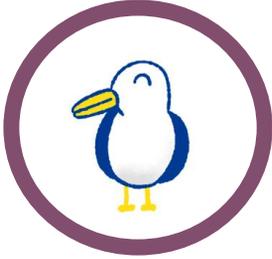


学びのジョナサン



K氏

「実行の4つの規律」を読んで



## やるかどうか その「覚悟」だけだ！

やってみてこそ、生きる本。ただ、やるかやらないかだ！  
効果は絶大ということは、頭ではわかる。



- ① 最重要目標にフォーカス
- ② 先行指標に基づいて行動する
- ③ 行動を促すスコアボードをつける
- ④ アカウンタビリティのリズムを生み出す

「実行の4つの規律」の内容は、いろんなところで言われていることだ。一般的な言い方をすれば、目標設定、課題抽出、進捗管理、定例ミーティング…。この本は、なぜそれができないのかを理論だて、処方箋を紹介している。やれば、やるほど効果が出る。ただ、その内容は、生半可ではない。



「実行の4つの規律」を読んで



学んだことが、現場で  
「実行」できない理由がわかった！

現場はいつも「緊急」が勝つ。そのうち「緊急でなく重要」な力士は、休場となってしまう。それでいいのか？



日常の仕事が忙しくなると、その仕事をこなすことに集中。緊急要件が入ってくればそれに集中。「重要でありながら緊急ではないもの」は先送りされ、ついには消滅。これはどこでも起こる。この認識に立って、「緊急」も「重要」もどちらも両立させていくことを、この本で学んでほしい。



「実行の4つの規律」を読んで



## 大いに反省。明確で心躍る 「目標」がないと組織は動かない!

この本の「最重要目標」事例に、米国・元大統領ケネディの「月」演説がある。具体的でシンプルで、心躍るものだ。



この本は、「パーキンソンの法則」にも言及。たとえば2時間でできる仕事でも、4時間与えられると4時間かけてしまう。あればあるだけ浪費するという法則。これに打ち勝つには、期限を決めること。フィニッシュラインを定めてこそ、心躍る目標に向けた「試合開始!」のスイッチが入る。



「実行の4つの規律」を読んで



## そもそも「勝てる試合」の環境をつくれればいいのだ！

本当に勝利につながるものは何か。本はブラッド・ピット主演映画「マネーボール」をケーススタディとして紹介。



潤沢な資金がないアスレチックス。緻密なデータ分析でわかったことは、勝利にはホームランバッターではなく出塁率の高い選手を集めること。出塁率こそが勝利の「先行指標」だった。勝てる要因をしっかりと導き出して、集中して働きかける。これが「勝てる試合」を仕組む秘訣だ。

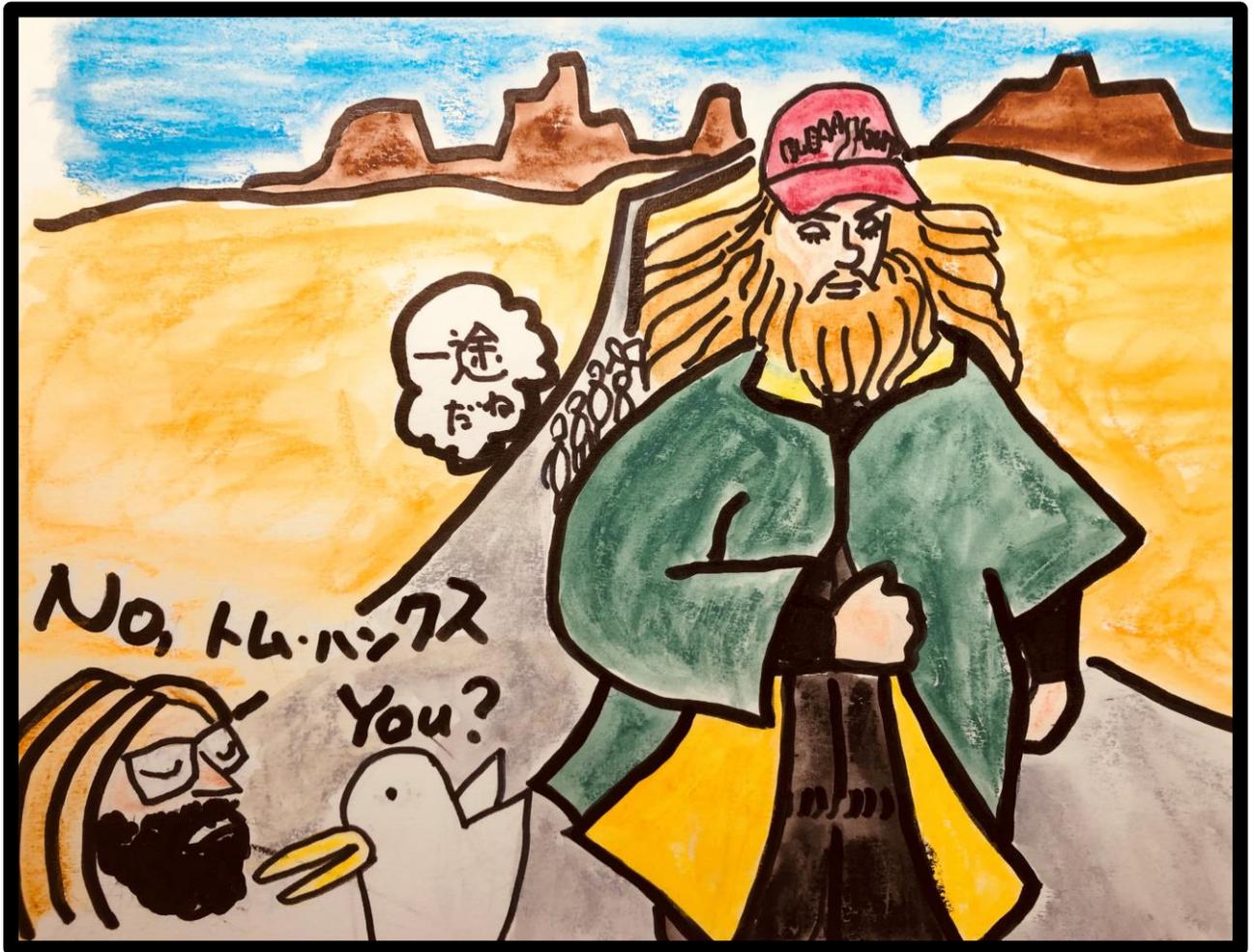


「実行の4つの規律」を読んで



## 本気で！一途に！

この本がいう、「ひとつにフォーカス」、「本気」、「愚直」。トム・ハンクスの「フォレスト・ガンプ」のイメージがよぎった。



この本で、「最良」の敵は「良い」、という表現がある。これもいい、あれも捨てがたいという「良い」アイデアに「ノー」と言うには、それよりも強い「イエス」が内面で燃えていなくてはならない。それを信じて最重要目標をひとつに絞る。よそ見をせずに愚直に、一途に、ひたすら走ることが求められる。

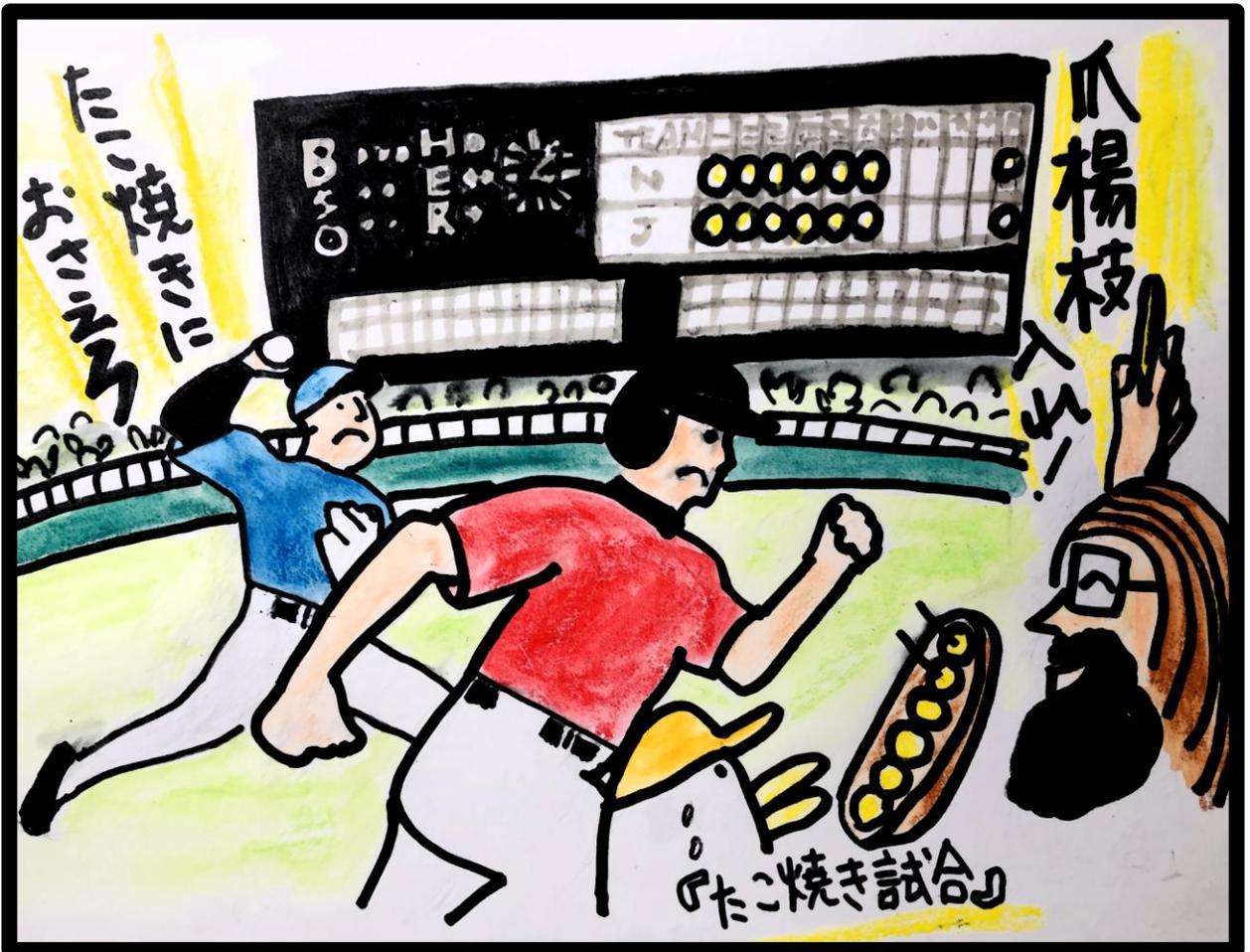


「実行の4つの規律」を読んで



## やっぱり、現状が見える 数値を示さないと燃えない!

数値で進捗管理。この本が強調しているのは、シンプルイズベスト。決めた指標がどう動いているかだけでいい。

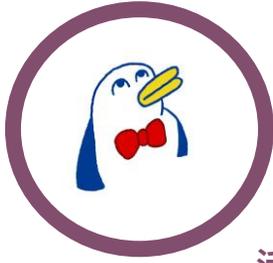


重要なことは実行の実感。

うまくいっているのかどうか、進捗の見える化は必須事項だ。誰しも「勝ちたい」という気持ちを持っている。そこを大切にしたい。スコアボードは、現在の状態とあるべき状態をシンプルに教えてくれる。そこからメンバーのモチベーションが高まり、確実な成果につながっていく。



「実行の4つの規律」を読んで



ミーティングの一貫性の大切さ、  
この規律の真の意義がわかった！

活動報告を決められた日時に必ず行う。全盲のクライマーのエベレスト登頂は、掲載事例の中でとくに印象深かった。



この本では、ミーティングの徹底を重要視する。これが、全員のモチベーションの結束が行える唯一の機会だからだ。ミーティング時間は短く、進捗を端的に報告。うまくいっていれば讃え合う。そして次の動きをコミットメント。このテント・ミーティングの徹底により、エリックは登頂に成功した。



## 第5回NATTARA読書会 終わりにあたって



「実行の4つの規律」の  
誌上読書会はいかがでしたか。

実は、この読后感想会の原稿を書き進めていくにつれて  
この本の「すごさ」が次第にわかってきたのです。

読みはじめの当初は、「4つの規律」はどれも、表面的には、  
それほど目新しいものには感じられませんでした。

ただ、事例を読み込んでいくことで、その事例のレベルの  
高さ、つまりこの本の「本気度」が伝わってきたのです。

ケネディ元大統領の「月」の話、大リーグ・アスレチックス  
の「出塁率」の話、全盲のクライマー・エリックの登山の話。  
どれも、すごい話です。つまり、人を感動させる話なのです。

「実行の4つの規律」は、その実行にはリーダーの心からの  
「覚悟」がいると思った次第です。

恥ずかしながら、  
自分もリーダーとして反省するばかりでした。



ここまでご覧いただきありがとうございました。  
次回も、どうぞご期待ください。

### 読書会メンバーを募集します

Info@nattara.netまでご連絡ください。

メンバーご希望の方は、キャラクターとして登場してもらいます。そして、  
感じたことをメールで送っていただければ、事務局でこの「NATTARA読書会」  
報告として編集いたします。ご応募、お待ちしております。